

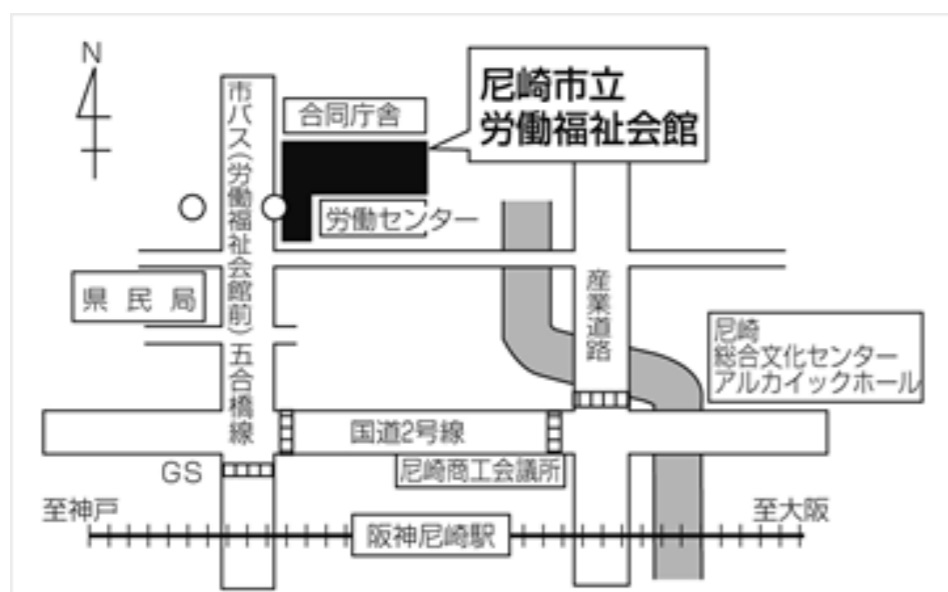
# 2012年診療報酬改定研究会のご案内

診療報酬改定の4月実施に伴い、協会は県下各地で改定研究会を開催します。  
尼崎会場の日時・会場は以下の通りです。会員の先生のほか、職員の方も多数ご参加ください。

## 尼崎会場

《医科・診療所》

日時：3月23日(金)  
14:00～  
会場：尼崎市労働福祉会館  
2階大ホール



※会員の先生方宛てに研究会の案内ハガキを3月上旬にお送りいたします。案内ハガキと引き換えで、会場で研究会資料(『点数表改定のポイント』)を1部無料でお渡しします。案内ハガキを忘れずにご持参ください。

なお、同資料は各医療機関宛に別途1部お送りします(3月下旬頃送付予定、無料)。追加は1部医科2000円、歯科1000円です。

※他地域の日時・会場、詳細につきましては、兵庫保険医新聞(2月25日号)・案内ハガキおよび協会ウェブサイト <http://www.hhk.jp/> をご参照ください。

協会ホームページで「2012年度診療報酬改定特集」掲載中！！

# 兵庫県保険医協会 尼崎支部ニュース

329号  
2012年2月25日付

〒660-0055 尼崎市稲葉元町2-11-10 八木クリニック内  
兵庫県保険医協会尼崎支部 TEL06-6417-6600 FAX06-6417-6011

## 第82回医療と福祉を考える会



講師の駒田裕子氏

尼崎支部は2月9日、池田病院にて第82回医療と福祉を考える会を開催。「介護現場で知っておくべき『胃ろう』の知識」をテーマに、西武庫病院・管理栄養士の駒田裕子氏、(株)メディコンの鬼崎聖大氏が講演し、52人が参加した。

鬼崎氏は、「PEGの看護管理について」と題して、胃ろう造設の手技、カテーテルの交換や取り扱い方、術前・造設当日・術後の管理、日常のスキンケア、栄養投与の仕方など、実際の映像を交えて解説。

駒田氏は、「地域連携における管理栄養士の役割～在宅患者の栄養管理について」と題し、西武庫病院での入院患者や在宅患者への栄養指導の内容を紹介したほか、在宅の胃ろう患者の実際の症例をあげながら、栄養投与のプロセス、患者の状態の変化など具体的に説明した。

## <感想文> 「胃ろう」の実践的な栄養管理を学ぶ

この講演はとても詳しい説明とビデオ映像でわかりやすく、栄養剤の注入方法やスキンケアなど、看護手順を基本的なことから復習し直すことができ、また知識だけで立ち会ったことがなかった胃ろうの造設や交換についても実際に映像で見ることができ、とても参考になりました。

また、在宅患者の栄養管理については、症例ごとに経過を追って見ていき、細かく栄養量を割り出し個々に合った対応をしていくことで大きな変化があり、管理栄養士の訪問によるアプローチがとても重要であると感じました。

そして、注入栄養剤の保険適用の有無によっては、コスト面での大きな差があり、患者負担にかなり影響があることに驚きました。誤嚥性肺炎を防ぐために注入剤を半固形にする方法がある

が、販売されているものは食品扱いのためコストがかかるので、医薬品の注入液にトロミ剤を混ぜて使用したり、水分やミネラル等を補うために清涼飲用水を使用したりといろんな工夫が必要だと知りました。

今回、「胃ろう」について考える良い機会になったと思います。今後、この講演会で見直すことができた自分の看護知識や、新しく得た情報を、患者家族や患者さんとの関わりの中で生かしていければと考えています。



胃ろう管理の実際の映像が好評

【ふなもとクリニック・看護師 松井美砂】

## 震災から17年―支部で取り組む震災復興住宅での健康教室 脳梗塞かな?と思ったらすぐに119番

阪神・淡路大震災から17年、震災対策として取り組んできた金楽寺復興住宅での健康教室を1月25日に開催した。この取り組みは、入居者の「引きこもり」、ひいては孤独死を防止するものとして継続しており、住人から喜ばれている。

今回は、わだ脳神経外科クリニック(長洲本通)の和田太郎先生が「冬に気をつけたい脳梗塞」をテーマに講演し、入居者14人が参加した。和田先生は脳梗塞のタイプとその特徴を述べたうえで、高血圧や糖尿病、コレステロール、喫煙、大量飲酒など生活習慣の乱れが危険因子となっておこることや、再発するリスクが高く、再発する理由に患者さんの誤った認識による服薬中断や通院中断が多いことなどデータで紹介した。また、片方の顔や腕がしびれたり、ろれつが回らなくなるなど、脳梗塞の前兆と思ったらすぐに119番することが大事と説明した。

入居者らは熱心に聞き、薬の飲み合わせや、「こういう場合検査したほうがいいか?」など日常生活の中での疑問が交流された。



参加者からの質問にひとつずつ丁寧に回答した

## 尼崎アスベスト裁判

### 「国がきちんと監督してくれていたら・・・」遺族が無念の思いを証言

12月21日に行われた環境型裁判第26回弁論は、2遺族の原告3人が証人尋問に立ち、120人が傍聴した。

最初に証言に立ったのは、突然「中皮腫」と診断され胸の痛みと呼吸苦に苦しみながら死亡した保井綾子さん(当時85歳)の夫、安雄さん。クボタから1.2キロメートルの所に住んでいた綾子さんはアスベストに関する仕事をしたことは全くなく、「毎日のようにクボタ旧神崎工場近くの潮江デパート(市場)に買い物に行っていたことが原因としか言いようがない」と断言した。

つづいて証言に立った娘の保井祥子さんは、「クボタ前のバス停の椅子に座るとズボンが真っ白になった」と証言し、「なぜ母が中皮腫で死ななければならなかったのか」「国がきちんと監督してくれたら、母は今もそばにいてくれた。クボタは責任を認めて欲しい」と訴えた。

クボタ旧神崎工場の真南のヤンマーで長年働き、定年退職後20年目に中皮腫で亡くなった山内孝次郎さん(当時80歳)の長男、康民さんは「クボタは加害者。『救済』ではなく『賠償』すべきとの思いから裁判を決意した」「あまりにも苦しそうな父の様子を見かねた妹が『父さん、これ以上がんばらんでもええよ』と声をかけたが、この言葉は忘れることはできない」と悔しさをにじませた。次回3月21日に結審、夏頃に判決予定。



報告集会で挨拶する遺族の山内さん

## 尼崎社保協・介護保険学習会

### 公費負担引き上げが急務



講師の日下部氏

尼崎社会保障推進協議会(尼崎社保協)では1月14日、2012年度以降の介護保険制度見直しに向け運動を強化しようと学習会を開催。大阪社保協の日下部雅喜氏が「2012年度からの介護保険はどうか」と題して講演し、市民ら115人が参加した。

日下部氏は、介護報酬の改定では主に定期巡回サービス・地域包括ケアの問題点について指摘。財源問題では、「税・社会保障一体改革」でさらに介護給付の切り捨てと効率化が叫ばれていることに対し、「公的負担の引き上げなしに解決できない」とし、都道府県財政安定化基金(極端な介護保険財政悪化の際に市町村に資金貸付や貸与を目的に都道府県に設置された基金。介護保険料から拠出。兵庫県の09年度基金積立残高は122億5千万円)の全額取り崩しなど求めるべきとした。

また松村ヤス子市議員から尼崎市の介護保険の見直し計画について、「市の介護保険料は国保とともに阪神間で一番高い」「特別養護老人ホームの入施設整備が追いついていない」など現状が報告された。

質疑では、参加者から劣悪な介護現場からの訴えが出されたほか、宮田しずのり県議員が兵庫県の財政安定化基金の現状と、全額介護保険会計に戻して保険料を引き下げる必要性について発言した。



制度見直しに向けた運動が提起された



## 第457回幹事会だより

1月27日(金)於・立花「味良久」参加:7人

- ◆尼崎支部の会員数と組織率  
1/26 現在 医科383人(83%)、歯科133人(52%)
- ◆医療をめぐる情勢と運動対策  
次回診療報酬改定、消費税増税問題、県立こども病院移転問題、市の特定健診、国の実態経済調査などについて活発に議論した。
- ◆当面の支部活動  
3月23日(金)14:00～診療報酬改定研究会を開催予定。
- ◆次回の幹事会  
2月24日(金)20時から武庫之荘・「Giancaldo」で開催。

お問い合わせはTEL 078-393-1805 長澤まで